

エッフアタ

マルコによる福音 7:31-37

(そのとき、) イエスはティルスの方を去り、シドンを経てデカポリス地方を通り抜け、ガリラヤ湖へやって来られた。人々は耳が聞こえず舌の回らない人を連れて来て、その上に手を置いてくださるようにと願った。そこで、イエスはこの人だけを群衆の中から連れ出し、指をその両耳に差し入れ、それから唾をつけてその舌に触れられた。そして、天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、「エッフアタ」と言われた。これは、「開け」という意味である。すると、たちまち耳が開き、舌のもつれが解け、はっきり話すことができるようになった。イエスは人々に、だれにもこのことを話してはいけない、と口止めをされた。しかし、イエスが口止めをされればされるほど、人々がかえってますます言い広めた。そして、すっかり驚いて言った。「この方のなされたことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてくださる。」

説教

先週の福音はイエスと律法学者との間での「手を洗う洗わない」というやり取りでした。マルコ福音書ではそのやり取りの舞台をガリラヤ湖のあたりとしています。その後、イエスはティルス地方に行つたとあります。ちょうど去年のいまごろ「カナンの女の信仰」(2014.8.17)という題でマタイ福音書(15章21-28)でその話はやりました。きょうの福音はイエスがティルス地方での「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます。」という女との問答のあとイエスがガリラヤ湖に戻ってきたところから始まります。

ティルスだとかシドン、デカポリスなどの地名がでてきますが、いまの地図でいうとレバノンからシリアを抜けてヨルダン経由でガリラヤ湖に戻つたと

いう経路になるとおもいます。地図の苦手な人も多いとおもいますが余裕があったら地図を見て、だいたいの位置の見当をつけてみてください。そこはイスラエル独立をめぐる紛争地域となっている場所です。ニュースで話題になっているシリア内戦、それに関連しての難民問題が起こっている場所をイエスは伝道されたのだということが想像できるとおもいます。（先週から報道されているトルコ海岸に打ち付けられた難民少年の映像、かりにイエスが今ここにいて溺死した難民少年に手をおいて祈ってあげたら…）

さて、イエスは力（りき）まないということ「パンの奇跡」のときに話しましたが、きょうの福音では力んでいる、「エッフアタ」って言うてる、あれ、力むイエスもあるんだ、ということになります。

指をその両耳に差し入れ、それから唾をつけてその舌に触れられた。そして、天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、「エッフアタ」と言われた。これは、「開け」という意味である。すると、たちまち耳が開き、舌のもつれが解け、はっきり話すことができるようになった。7:33-34

この奇跡のあと、例によってイエスはこのことを人々に口止めをします（メシアの秘密といわれています、イエスがメシア=キリストだということを隠す、秘密にする）でも人々は黙っていません、彼らは驚き、そして称賛します。これはユダヤ人にとっては第一朗読のイザヤ書 35:5 の預言が実現したということになります。イエスがメシアであることの証拠、明らかになったしるしとしてイエスの癒しを受けとめ、理解し、ほめたたえます。

ちょっと視線を変えて福音に聞いてみましょう。イエスはメシアであることを口止めする、それはご自身がイザヤの預言を実現した者として人々に称賛されることを望んでいないとも読み取れます。ただ、単純にそんなおだてには乗らないぞ、という意味合い（謙遜？）ということではないとおもいます。

逆説を言いますので、注意して聞いてください。

人間は称賛することで隷属します。誰かを褒め称えることは裏を返せばその人の奴隷になるということです。イエスは人々の隷属を望んでいない、だから賞賛を受けることを拒否する、誰にも言うなと口止めをする、この福音はそのようにも読み取れます。

イエスをわかるということ、きょうの福音の直前のカナンの女の信仰（マルコ福音書ではシリア生まれのギリシア人となっています 7:24-30 参照）彼女はイエスを理解していた、それは異邦人であるゆえだともいえるのです。彼女はイザヤの預言を知らなかった。しかしイエスが神から来た人であることを悟っていた、その信仰がイエスをして驚嘆させたのでした。

イエスをわかるということはどういう事でしょうか。ユダヤ人は最初はイエスをわかっていた、そこに至るにはいろいろ誤解もありましたが、イエスをイザヤの預言どうりのお方、イエスはメシアだと理解しました。でも十字架につけ、イエスを拒否し、またイエスの弟子たちも拒否した。そして年代が下りユダヤ教のひとつのセクトだったナザレ派からキリスト教が、そして教会が誕生したということです。

イエスは信じる人々に口止めをしました。それは人々がイエスに隷属することを否（いな）とした、イエスを盲信することを拒んだからでしょう。ではいまの教会には隷属がないか？教会は教会員を奴隷としていないか。教会は牧師を絶対として批判を許さず、盲信を求めてはいないか。また牧師は教会員に服従を命令したことはないか？説教は隷属を命じるものとなってはいないか？

キリスト教の栄光の歴史の影には暗い面もあります。隷属はそのキーワードです。

わたしたちのセカンドチャーチは隷属を拒否する教会として生まれました。

イエスは人々に、だれにもこのことを話してはいけない、と口止めをされた。しかし、イエスが口止めをされればされるほど、人々はかえってますます言い広めた。7:36

イエスを伝えるということはイエスが口止めされたことを言い広めることではありません。これはとても肝心なことです。
